

あかしびと

94号 クリスマス号 2015.12.25 発行

日本バプテスト同盟 金沢文庫教会

〒236-0046 神奈川県横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20

☎/Fax 045-783-5475 牧師：森島牧人・恵 名誉牧師：白根新治

「インマヌエルの神」 牧師 森島 牧人

クリスマスおめでとう
ございます。皆様と共に2
015年のクリスマス礼
拝をお祝いできますこと
を喜び感謝いたします。

私には中学に入学した
頃の忘れられない思い出
があります。今から50年
以上前のことです。ここに
「インマヌエル先生」と呼
ばれるお年寄りの先生が
おられました。「ハレル
ヤ！インマヌエル！アーメン！」が先生の口癖でし
た。この方は、関東学院初代院長の坂田祐先生でし
た。

この年のクリスマスが近づき、ページェントと呼
ばれるキリスト降誕劇の練習をしている時、あの言
葉「インマヌエル！」を聞いたのです。台本には、
ベツレヘムの馬小屋で生まれた赤ん坊についてこう
書かれていました。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名
はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々
と共におられる」という意味である。

(マタイ21章23節)

クリスマスの頃に、出会った一つの詩があります。
作者は、M. F. パウエルとも作者不詳とも言われ
ながら、今なお世界中で愛されている詩です。

『足跡』—Footprints—

ある夜私は夢をみた。



主と共に砂浜を歩いていた。その時、私の人
生のひとこまひとこまが空いっぱい映しだ
された。

どの場面にも、二人の足跡が砂の上について
いた。ひとつは私のもので、もうひとつは主
のものだった。

そして私の人生の最後のシーンが映し出さ
れたとき、砂の上に続く足跡をふりかえって
見た。

すると、ところどころ一人の足跡しかないこ
とに気がついた。しかもそれは私の人生で最
も辛い悲しいどん底の時だった。

私はどういうことか分からず悩み、主に尋ね
た。『主よ、かつて私があなたに従うと決心し
た時、あなたはどんな時も私とともに歩ん
でくださると約束されたではありませんか。そ
れなのに私の人生で最も苦しかった時、一人
の足跡しかありません。なぜ、あなたを最も
必要としていた時、私を見捨てられたのです
か。』

主イエスはこう言われた

『私の大切な子よ 私があなたから離れたこ
とは一度もなかった。あなたが試みにあつて
苦しんでいたその時、私はあなたを背負っ
ていたからだ。』

クリスマスの出来事は、都エルサレムでなく、ユダ
ヤの田舎のベツレヘムで起こりました。辺境の地、荒
野で呼ばれる声で始まったのです。

クリスマスは、華やかなパーティーの中心ではなく、隅っこで膝を抱えてうずくまるその乾いた心に起こるインマヌエルの出来事なのです。

教会に集う者は、このインマヌエルの出来事の証人なのです。クリスマスの出来事は、「愛の誕生」だ

からです。

皆さま方の上に、神様の祝福が豊かにありますようお祈りいたします。どうぞ良きクリスマスをお迎えください！

目 次	
インマヌエルの神 -----	森島牧人(牧師) ----- p. 1
私の記念日 -----	西山茂樹 ----- p. 2
若き頃の信仰自叙伝 -----	白根新治(名誉牧師) p. 3
第二の故郷・横浜 -----	塚田正彦 ----- p. 4
クリスマスとイエス様 -----	白根義輝 ----- p. 5
秋の収穫 -----	大井法子 ----- p. 6
クリスマスを迎えるにあたって -----	勘田義治 ----- p. 6
50 円切手, 思い込み, 感謝の祈り -----	犬塚志朗 ----- p. 8
牧師就任の辞 -----	森島牧人・恵 ----- p. 9
就任式のアルバム・皆様からの励ましのおことば -----	p.10

私の記念日

私は毎年、この季節になると迎える年の予定と過去の大切な出来事を手帳に書き込みます。その中に30年来、全く変わらない書き込みをしている個所があります。

- 昭和 53 年 3 月 2 日, 父の召天日
- 昭和 55 年 1 月 27 日, 家内と共に受洗
- 昭和 56 年 5 月 31 日, 神さまとの出会い
- 昭和 56 年 12 月 15 日, 国際ギデオン協会入会

私にとって、この記入した日がこれまでの人生の中で最も意義深い日。表現を変えるとこれまでの歩み、価値観から脱皮して向きを変えて出発させていただき、主を身近に戴く力強さを実感することができるようになった節目に当たる日なのです。

「教会に行くのはワシの信念じゃ。」 父が広島県の福山から私の所に居を移して間もなく脳血栓を患い、それが徐々に進行して、自分の便がいつ出たのか判別ができなくなってきた頃のことです。未だ、キリスト教の何であるかも知らない私は、父に教会に行くのをやめるように注意しました。その時の言葉がこれでした。

西山茂樹

時は移って、入退院をくりかえしていた時でさえ、アメリカに長期の出張に向くわがママを黙認してくれた父。その父が召天したのが3月2日。父の遺志によって、社員数5,000余人の相模鉄道の中で、初めてのキリスト教式の葬儀を行いました。未信の私には耳慣れない前夜式という名称、あるいは讃美歌にとまどいを感じていたものでした。これが私とイエス様、そして教会とのご縁のできた最初でした。私の家の応接間の中央に父の写真を飾っていますが、この下に父・西山五一「一粒の麦が落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、もし死んだら豊かに実をむすぶようになる」(ヨハネ12:24)というみ言葉を記してあります。

正に私の実感であり、父の死が私の入信の最大の動機となりました。その後、父の同級生で牧師をなさっていた井上哲雄先生と父の面影が重なって、父に会えるような気がするようになり、夫婦で洗礼をお受けしたのが2年後の1月27日でした。それから、家内と共に毎日聖書を拝読しあう習慣がつくようになってきました。そんなことが惰性に流されるきらいをみせ始めた時期に、全く不思議な導きをいただき、実存しているが如き神様に会うことができました(5月31日)。

日々これ生きがい、森羅万象すべてのものに感謝したくなる素晴らしい心です。

その後、相模鉄道の役員としての心のゆとりも併せていただき、神さまのご栄光のために働く気持ちが強く揚(た)かまってきたのです。この、まごうことなきありがたいみ恵みを、多くの未信の方々にお伝えするために(12月15日)国際ギデオン協会に入会しました。こんな経緯を辿って今日に至っております。そして今、私はこう考えております。

私達ひとり一人はそれぞれに神様から素晴らしい信仰生活の核となるものを戴いております。

この賜物にみがきをかけて、キラキラと光輝く教会で、森島牧人牧師・恵牧師、白根新治先生、皆様方と御国を目指して歩いていきたいものだと思って

います。教会は建物を指すではありません。そこに息吹く、私達ひとり一人の思いの集約が御国へと続く道筋を造り上げて行くのです。

素晴らしきかな、我が人生！

我らの主、イエス様！

私の記念日
毎年のこの季節になると迎える年の
過去の大切な出来事を手帳に書き込んで
の中に三十年来、全く変わらな
じている箇所があります。
和五十五年三月二日、父百年。
和五十五年一月二十七日、家内と
和五十六年五月三十一日、神様と
和五十六年十二月十五日、国際ギ
デオン協会に入会。私に与って、この記入を



若き頃の信仰自叙伝(その1)

白根新治(名誉牧師)

白根新治現名誉牧師が47歳の時、当時の金沢文庫祈りの家の週報に執筆、連載された「信仰自叙伝」を、お許しを得て「あかしびと」にご紹介させていただくことになりました。全部で22回分ありますが、順次ご紹介いたします。なお23回以降を「信仰自叙伝」の続編として白根先生にゆるゆると執筆して頂き、後世に遺して頂ければ大きな喜びです。

ご紹介と幾分の編集に携わることが出来ました感謝をみ神にお捧げします。

(日付は掲載した週報の年月日) 羽入田 毅

1. 神学校の卒業論文に「ジョン・ウエスレーとホイットフィールドの予定説に関する論争」を書いた。18世紀初頭英国、流血革命から無血革命へと救いに導いたのは、ウエスレーのキリスト教伝道である。彼は馬の背にまたがって、「万人救済説」—どんな人でも必ず救われる—を力説した。カルヴィン派の神学生であったホイットフィールドは予定説—救われる者はあらかじめ定められている、という説—を説き対立した。しかも、この二人は猛烈に伝道し激しい論争を続け、いつ果てるともわからなかった。卒論にこのテーマを選んだのは、中学時代の生活に起因している。(1961・5・7)

2. 昭和11年4月に関東学院中学部に入学した。その年の7月に日支事変が起こり、先の満州事変より国内は一層軍国化されていった。町では出征兵士を送る旗の波が見られぬ日とて無かった。そして、

いろいろな自由が失われてゆき、学校や教会においても失われつつあり、徐々に信仰の自由にもひびが入り込んでいった。昭和16年12月太平洋戦争に入ると、当局の圧迫はまことに露骨なものとなり、数名の牧師が獄死するようになったのである。そのような状況下で教会の青年たちは、真面目な態度で案外朗らかに、またしっかりした団結を持って神の国到来の運動を続けていたのである。(1961・6・4)

3. 当時の学校は、礼拝出席は自由であったが、小講堂に溢れるほど出席していた。基督教青年会は、1年生は全部、2年生は自由であったが、働く活動は活発であった。

中学3年の時、青年会の掲示板に新年度の役員の名が発表されたが、その中にどうした事か私の名が載っていた。その頃私は剣道部で活躍していたが、部の上級生が殆ど青年会の役員であったので、私の

名が挙げられたのであろう。これが神の選びというのだろうか。この時から真剣に求めるようになっていった。(1961.6. 18)

4. 信仰は聴くによる。学校で私の中に播かれた福音の種子は、教会に於いて発芽され育てられた。中1の時、聖書の先生は八木先生であったが、この先生は無教会即ち内村鑑三先生の弟子であり、師から洗礼を受け、純福音を掲げた実に熱血居士であった。少なからず影響を受けたが、2年の時は山北先生だった。先生は東京三崎町教会の牧師であるが、教会の存在を示された事は大きかった。そして3年の時に友人に誘われて、日本メソジスト横浜教会に出席

するようになった。(1961. 6.25)



第二の故郷・横浜 塚田正彦

(金沢文庫伝道所時代に白根牧師より受洗。現日本基督教団長野教員)

0 ゼロからの出発

10月25日牧師就任式の朝、北陸新幹線経由で40数年ぶりに金沢文庫駅に降り立ちました。なんという日射し、なんという変わりようだったことでしょう。23歳の春、僕は関東学院六浦中高の教壇に立たせていただき、貴重な経験をさせていただきました。何が貴重だったか。キリストに出会って洗礼を受けたのです。このわずか3年がなかったら、僕はクリスチャンにはなっていなかったでしょう。父はクリスチャンでしたが、僕は反抗的な思いを抱いていたので、大学を出てストレートに故郷に帰っていたら(それは当時考えられませんでした)、まったく違う道を歩んでいた、と思います。そう思うとぞっとします。3年目に両親に帰郷を命ぜられ、長野の公立高校に赴任しました。高1の担任だったので、今でも心残りがあります。そして世事にまみれ、妥協・放埒の生活に堕した時もありました。しかし、人間の目には見えずとも、神の示す道は一筋でした。曲折があっても、今この時のために主なる神様は見守っていてくださったのです。一日一生、です。

1 その一言

関東学院大学の講堂を借りての朝礼拝が始まる前、生徒の後ろでベテランの数学教師清水先生と話をしていましたが、先生が「こうしていただけるのも恵みですね」とおっしゃったのです。突然涙があふれました。恵み、それはそれまでの僕の人生で実感をもって聞いたことがなかった言葉でした。温厚あふれ

る先生の言葉に僕は感動し、先生の「どこかの教会に行きなさい」の一言で白根先生の伝道所の礼拝に出席するようになったのです。

2 文庫伝道所で

白根先生のご自宅の文庫伝道所では、お役に立たないうちに転出してしまいましたが、クリスマスではキャロリングに出かけた事は鮮烈な思い出です。また一時期ガリ版刷りの週報の印刷を担当しましたが、それを小さく折りたたんだ形にしたのは若気の至りでした。礼拝が終わった後の応接間でのお茶の時にいただいた「レモン湯」の味は、優しい奥様の面影と共に今なお忘れられません。

またある日礼拝の後、出席していた学生が質問して、「仏教で墓石に向かって拝まされるが、どういふふうを考えればよいでしょうか」と言ったのに対して、白根先生が「墓石の背後に向かって祈りなさい」と適切な指示をされたことを、深く受け止めていまだに思い出しています。

3 弱さの中でこそ

「すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。」(コリントⅡ12・9)

文庫伝道所で与えられた信仰と、関東学院六浦中高英語科という土台あってこそその46年間の教員生活でした。自分に力がないことを自覚しつつ、なんとか興味を持たせたいと思って授業をしました。長

野に戻ってからも、「英語が好きになった」と言ってくれた高校生が何人かいたことを誇りとしています。中学で英語が嫌いだったのに、高校でそれをひっくり返した喜びがありました。今ではすたれたL. L. が長野でも入り始めた時で、さかんに使えたのは良い思い出ですが、関東の中学生に「先生の声は小さい」と言われて悩んだのが視聴覚教育への興味のはじまりでした。(その時クラスのガキ大将が、「聞こうと思えばちゃんと聞こえるよ」と僕を擁護してくれたことも忘れられません。)長野で英語の全国大会があった時、犬塚先生が来られて我が家に泊まっていたという懐かしい思い出があります。

教会には定年がありません。現在の教会でも難題がありますが、元気なうちは出来ることをしていきたいと思っています。神様の恵みです。



たち葵 塚田兄撮影



長野の大空の下、リンゴ畑 塚田兄撮影

白根先生と森島牧師ご夫妻のもと、主にある文庫教会の着実な発展を、はるか長野の空の下よりお祈りしています。

「クリスマスとイエス様」

白根義輝

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」 ヨハネ3：16

神様は、私たち人間をお造りになりましたが、人間は神様から離れて、自分勝手に生きてきました。これを聖書では罪といいます。

神様は、自分勝手に生きている人間なんて、どうにでもなってしまうと、一人残らず天国に来られないようにすることもできました。

でも、神様は、私たち人間のことが大好きです。どのくらい好きなんですか？それは、聖書に書いてあるように、大事なイエス様を私たちに下さるくらい大好きなんです。

ですから、私たちを、なんとかして助けてあげたいと思われたのです。

神様は、どんなことでもできるお方ですから、「あなたたち人間の罪を全部赦してあげるよ」と、一言言えば、私たちを赦すことができます。

では、なぜわざわざ、救い主としてイエス様がお生まれにならなければならなかったのでしょうか。

神様は、「いや、ちょっと待てよ。簡単に人間を赦すと、自分たちが悪かったことを反省しないで、今までと同じように、悪いことをやり続けるかもしれない。それでは、意味がない。」と考えました。

「そうだ、悪いことをしたことがない人間だけ天国に迎え入れよう。でも待てよ、それでは、一人も天国に来ることはできない。困ったな。」

そこで、神様の大切な子どもでもあるイエス様に、私たちが受けなければならない罰を、代わりに受けさせてくださったのです。ここに神様の愛があります。

イエス様は、私たちの代わりに十字架にかけられ、殺されましたが、三日後によみがえられ、永遠の命が与えられました。

それで、やっと私たちの罪が赦され、天国へ行かれる道ができたのです。イエス様は、このためにお生まれになりました。

さて、私たちは、何も苦労しないで、天国に行かれるようになったのでしょうか。安心するには早過ぎます。まだ、私たちがしなければならないことが残っています。

神様は、イエス様を救い主と信じる人だけ、どうぞ天国へいらっしゃい、とおっしゃいます。ですか

ら私たちは、神様のおっしゃるとおり、自分の罪を認め、イエス様を救い主として信じなければ、せっかくのイエス様のお誕生が、無駄になってしまいます。

ある教会の一人の年配の御婦人、簡単に言えばおばあさんですが、クリスマスについてこのようにお話しされたそうです。

「クリスマスは、神様の独り子イエス様が、こんな私のためにお生まれになりました。本当に申し訳ない気持ちになります。毎年クリスマスを迎えるたびに、ありがとうございます、という気持ちで一杯になります。」

私たちも、プレゼントや美味しい御馳走などで楽しむだけではなく、救い主イエス様のお誕生を受け

入れ、心から感謝するクリスマスを迎えたいと思います。（教会学校でのお話）



収穫の秋 大井法子



壁飾り
「収穫の秋」
大井法子作

ある火曜日の午後、拙宅に美しい来客がありました。

彼女はスタイル抜群、若く、美しく、お洒落で、出迎えた私もうっとり。

愛車を車庫に入れ、上がって戴きました。

私は紙コップに美味しい水を入れただけの、接待しか出来ません。

しかし、主が確かに臨在下さり、しばしの語らいの時は流れ、最後に祈り合いました。

私は沢山の友人が与えられています、数少ない信仰の先達との喜びと感謝に満ち溢れたひと時でした。

クリスマスを迎えるにあたって 勘田義治

いよいよ今年もクリスマスがやってきます。カボチャが終わるや否や、デパートやショッピングモールではクリスマス商戦の準備が始まります。多くの教会員の皆さんと同じように、私は毎年クリスマスを迎えるたびに、なんとも不思議な思いにとらわれてしまいます。イエスが生まれたアジアの西の果てのパレスチナからみれば、東の果ての日本においてはとても不思議なことであります。同時に、2000年の時を経て、今なおイエスほど多くの人々から誕生

日を祝福されている人物は他にいないのではないのでしょうか。

私がよく行く、タイ北部のミャンマーとの国境地帯では、歴史も文化も信仰もタイ人とは全く違う少数民族たちが、山の奥



深く、小さな村々で昔ながらの生活を営んでいます。彼らはもともとは中国やミャンマーで生活していましたが、150年ほど前から徐々にタイへと移住してきました。現在、彼らの中には少なからずクリスチャンがおり、日曜日には民族の教会で、民族の教会員たちによって礼拝がまもられています。彼らのクリスマスもこれまた独特で、12月の月上旬から2月の終わりごろまで毎週の様にとこかの村ではクリスマスが祝われ、飾り付けもそのまま残されています。

彼らはもともとは私たち日本人と同じように自然界の事物に精霊が宿ると信じ、恐れと感謝をもって信仰生活を送っていました。ところが19～20世紀に欧米の教団から派遣された宣教師たちが聖書と讃美歌を携えて彼らの村へやってきました。最初は布教活動に抵抗した彼らですが、新約聖書に描かれていた当時のユダヤ社会と彼らを取り囲むタイ社会とが偶然にもよく似ており、神ヤハウエがモーセをとおしてイスラエル民族に与えた掟、すなわち律法に縛られ、生活苦に追われていたガリラヤ地方の庶民に自分たちの姿を重ね合わせ、救いを求めて改宗の道を歩む者が出てきました。

タイは言うまでもなく仏教を国教とし、国王を君主とする立憲君主制国家です。また貧富の差が激しく、強固な格差社会を古くから維持しています。そのような国に少数の異民族が移住してくると、慣習の違いからたちまち蔑視と差別が始まり、少数民族たちは社会の底辺で喘ぐ生活を強いられます。多数派の理不尽な規制や要求に耐えながら、何とか民族の伝統を維持し、生活しようとする少数派の人々にとって、聖書が伝える福音はどの様に映ったのでしょうか。善きサマリア人のたとえを彼らはどの様に解釈したのでしょうか。

掟を守ろうとも守り切れず、社会のどん底で生活する人々にとって旧約聖書の神は、父性原理の強い、まことに恐ろしい神でありました。それに対し、イエスの祈りは赦しと慈愛に満ち、神は人々にできないことを要求したり、できないことに罰加えるような方ではないと説きました。神は罪深い私たちの弱さ、賤しさを赦し、慈しんで見守ってくださる方であると説きました。思い煩いの中にあつた少数民族の中にいっさいを神にゆだね、赦しと慈愛の神へ開眼した者があらわれたことはごく自然であつたと思います。

ところで民族の村から6,000 kmも離れた日本に住む私たちはどうでしょうか。クリスマス商戦の喧騒はともかく、現代の日本人が当たり前享受している生活の“快適さ”は近代産業の発展により可能になったと誰もが信じています。一方で視線を世界に移すと欧米を代表とする世俗的な原理主義とイスラム過激派を代表とする宗教的な原理主義の正面衝突により毎日の様に多くの人命が失われています。その様な中、私は“欲望”と“自己中心主義”に憑りつかれ、“幸福”にまい進した自分のいたらなさに深く気づかされ、また何もできない自分に失望し、落胆するのです。

そのいたらない自分を我が子のように温かく受け入れてくださる、大きなまなざしに気づかされることがあります。それは日曜日の礼拝であり、家で家族と共に祈るときです。こうべを垂れ、目を閉じ、手を合わせると自然と心の平安が訪れます。他人を審くのではなく、弱さや欠点を受け入れる慈愛の心が生まれ、平和共存への道がひらけてくるのを感じます。イエスの説いた、アッパの神の慈愛のまなざしは2,000年の時を超え、今も未だ生きとし生ける許多に注がれ、どの様な時であっても平和、共存の道を導き出すと感ずるのです。

タイ北部山岳
少数民族アカ族
の

正装の教会員



祝会での少女たちの歌舞



愛餐会での豚の解体



「さあ、50 円切手、貼らなくっちゃ！」

ある重要書類の書き込み終了後、財布の中にあるはずの切手を取り出そうとしたら、見当たりません。2 円切手は数枚あるのあと 50 円切手、整理整頓の行き届いている(?) 我が家の心当たりのあるところをあちこちさがしました。…… やがてタンスの引き出しの中に見つけました。「あったあー！」ポーと心に火が灯りました。

でもそれは 80 円切手ばかり、それも 10 数枚。ほかに 41 円と 52 円のお年玉記念切手シート。「もったいない！これは使いたくない!!」

「50 円切手さえ見つかればすぐ近くの郵便ポストに、投函できるのに…っ！」

しぶしぶ寒空の暗闇の中、営業終了時間直前に 1 km も離れた郵便局に自転車で駆けつけました。

郵便窓口ではうら若き女性局員に笑顔で迎えられました。50 円切手一枚買い求め、持参した 2 円のを足して切手を貼って、帰り際「有難うございました、これで出口のポストに投函できますね」と、笑顔で出ようとなりました。その時、郵便局員に呼び止められました。「本日の郵便物の回収は終わりましたので、当方でお預かりして明朝一番で出しておきます。」

本当にだしてくれるのかしら、忘れられては困るこの重要書類、届かなかつたら、と、少し不安になりました、が、「それではお願いします」と封筒を渡し、これで一安心。そう思って出ようとしたら、背後から声がかかりました。「お客様、30 円分の切手が不足していますよ！」

はっとして気づきました。これは**封筒**だったんだ。つい先日、提出締切間際に 50 円と 2 円の切手を貼って出したのは**はがき**だったんだ。すっかり忘れていました。**とんだ思い込み!!**

なんの妨げもなく自分で投函していたら、30 円不足の郵便物はどうなってしまおうだろうか？ 差出人の住所氏名は封筒には書き入れてないので戻ってきません。結果は書類**未提出**という理由で次年度からの私は…！

神様に祈るようにして、神経を張り詰めて仕上げた重要書類、最後にうっかり誤投函せずすんだのは、

1. あるはずの 50 円切手はその時見つからなかったこと
2. 帰り際、郵便局員に私が声をかけたこと(これは私の人柄)、そして声をかけられたこと(まさか彼女が私の行動を不信に思ったわけではないと思います。が…。)

うっかり間違い!! 多くなりました。私がこの偶然の出来事を通して、こんな些細なことまで見守られているのだろうか、と、御加護に感謝の祈りをしました。

詩編 121 : 1~2, 7~8

目を上げて わたしは山々を仰ぐ
わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る

天地を創られた主のもとから

.....

主がすべての災いを遠ざけ

あなたを見守り

あなたの魂を見守ってくださるように。

あなたの出で立つのも帰るのも

主が見守ってくださるように。

今も、そしてとこしえに。



皆様に良きクリスマスが訪れますようお祈りしています！

牧師就任の辞

森島牧人 惠

去る10月25日の金沢文庫教会牧師・名誉牧師の就任式に、多くの方々にお出でいただき、誠に感謝ございました。

私どもは、今年で伝道者生活43年目を迎えました。この43年の伝道者としての原点が、この丘に建てられた金沢文庫教会です。私、森島牧人は、教会の牧師として、そしてキリスト教学校のチャプレンとして働いてきました。この私のお手本は、白根新治先生でした。このたび白根新治先生と共に、この金沢文庫教会の牧師として、ご一緒に奉仕させて頂くことは、私どもにとりまして大きな喜びであります。そして何よりも神様の御導きであると信じ、感謝しております。

40年余りの時を経て戻ってきた教会には、信徒の方々がすっかり移り変わっていました。かつてご一緒させていただいた当時の方には、嬉しいことに犬塚志朗兄と白根牧師の御子息白根義輝兄がおられます。また金沢文庫教会では、澤野寛牧師や中山将太郎兄（転出：3月に台湾人のための開拓伝道を開始された）の奉仕によって礼拝がささげられ、高齢の白根新治牧師を支えて下さっていました。この方々だけではなく、金沢文庫教会には遠く離れていても教会の働きを覚えて支えて下さる方々がおられました。毎月のように届けられている『あかしびと』誌は、教会の皆さんが力を合わせて作成し、宛名を張り、封をして、祈りつつ心を込めて届けられています。そして受け取られた多くの方々が、献金を届けてくださり教会の働きを支えて下さっています。金沢文庫教会には、このように主と教会を愛してやまない多くの方々によって、尊い奉仕の数々が捧げられて今日を迎えています。

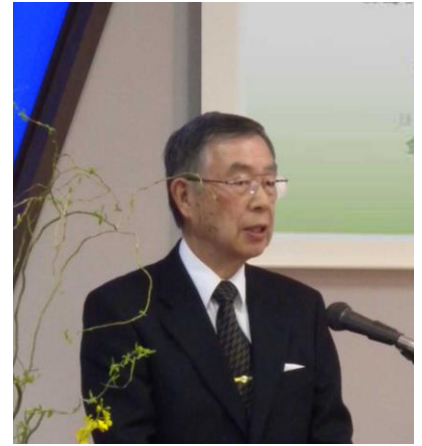
わたしどもはこの金沢文庫教会からお招きをいただきました。これを神様の召しであると信じ畏れつつ、感謝して伝道の働きをお受けする決意に導かれました。神様の御祝福と、主の教会を愛する皆様方のお祈りに支えられ、謙虚に、誠実に、託された務めに取り組む所存でございます。どうぞよろしくお願い致します。



三人並んで記念撮影
白根新治名誉牧師、森島牧人・惠牧師



牧師・名誉牧師就任式



就任式 式次第

司式 関東教会長
高橋 彰 牧師
奏楽 聖真教会のアンズ
鈴木敦子 様

前奏 ～天にまします私たちの父よ～ シャイゲマン

讃美歌 390 「主は教会の基となり」

聖書 使徒言行録 20 章 28 節～32 節

祈祷 経典委員会長 梅谷興三

讃美 ～未来に向かって歩き出そう～
関東教会ヒム フレンド

式辞 教会への勤め
日本バプテスト同盟総主事補佐
日本バプテスト協教会 大矢和男牧師

就任の辞 森島牧人・恵 牧師
白根新治 名誉牧師

讃美歌 403 「開けよ、愛と真理の門」

祝辞 日本バプテスト同盟理事長
磯子の庄教会 山本富二牧師
日本バプテスト同盟総主事
東京平和教会 大矢直人牧師

讃美 26 (ゴロリア、ゴロリア、ゴロリア)

祝辞 森島牧人牧師

讃美 ～神のみわざはすべて正しい～ ヴェルター

~~~~~

祝電披露 星野潤男

謝辞 信徒代表 大塚志朗

聖書 使徒言行録 20 章 28 節～32 節

どうか、あなたが自身と御社会共に負を担ってください。聖書は、神が御手の御によって御自分のものとなり、神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命されたのです。わたしが来た後には、残虐な強迫もあなたがたのところへ入り込んで来て群れを束ねることが、わたしには分かっていません。また、あなたがた自身の中からも、御話を囁いて御子たちを欺かぬようにする者が現れます。だから、わたしが広布告、あなたがた一人一人に改も益も涙を流して教えたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを導き上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がれることができるのです。

入りきれず下の階で、就任式を  
映像で見守るご列席の方々

## 牧師、名誉牧師の就任に当たって 多くの方々から励ましのおことばをいただきました

**NH様** 名誉牧師 白根新治先生 主の御名を讚美いたします。主の恵みと平安のうちにお過ごしのことと存じます。白根新治先生が引退され、8月1日に名誉牧師として就任されたこと、そして、森島牧人師と恵師とが後任牧師として就任されることになったこと、その就任式が来る10月25日に開催されるとのご連絡をいただきました。58年前に、奥様のご協力を得て開始された金沢文庫の教会。会堂を建てるために、古新聞を集めておられた頃の、先生の姿を思い起こします。浅間山で、学生の夏期修養会の講師として招かれてから先生と親しいお交わりを与えられ、幾度か、先生のお招きに応じて、教会での夏期の研修や、礼拝での説教の奉仕をさせて頂きました。先生は、教会の信徒だけでなく、常に私たち同僚牧師の先頭に立って、神の御言葉を語って下さいました。その白根先生が、第一線を退かれたことは、真に残念なことです。それでも、金沢文庫教会の将来を築く、すばらしい後継者に託することが出来たことで、先生はどんなにか喜んでおられることでしょうか。どうぞ健康に留意され、引き続き後輩のご指導を下さいますように、お願い致します。またお目にかかれる日を楽しみにしています。

私は、家内が始めた小さな保育園が、引き続き行えるように、認可に向けての手伝いをしています。建物の改修が行われる前に、身の片づけをしなければならず、残念ながら、10月25日の式には、参加できません。就任式の上に、主の豊かな祝福をお祈り致します。2015年10月13日 在主

**MS様** 就任式が神様に豊かに祝されますように。

**MS様** 主の御名を賛美し、この度の諸先生就任式、本当におめでとうございます。今後、ますます神と人へと仕える元気な教会とされますよう、陰ながら祈りあげます。乱筆お許しください。

**HS様・MS様** 最善の時に最善の牧師先生ご夫妻をお遣わし下さった主に心より感謝しております。当日、喜んで出席させていただきます。素晴らしい就任式となりますよう、又これからの一切の準備の上に、主の豊かな導きがありますよう、祈り居ります。

**KK様** 白根先生、名誉牧師就任本当に有難うございました。牧人先生、これからも同盟のためによろしくお祈りいたします。恵先生、ご活躍を期待致し

ております。文庫の主の愛に満たされた聖徒の皆様、横浜市民と大学生の救いのために、主の命に生かされて祝されますよう、北の十勝よりお祈り致します。

**MM様** 白根君とは関東学院中学の同期生です。友人として年一回クリスマス礼拝に伺いましたが、用事も欠席します。白根君には直接励ましの言葉をご自宅宛致します。

**FO様** 先生には関東学院六浦中高に新卒として採用になった時から、ご自宅に於いても本当に長い間、人生の師としてご指導を賜ってきました。名誉牧師になられても益々ご健勝で、金沢文庫教会のご発展のために、ご指導力を発揮されるよう、心より祈念申し上げております。出席できなくて申し訳ありません。

**FN様** シルバーカーで主日礼拝に出席しています。白根新治先生、長い間ありがとうございました。森島牧人牧師、森島恵牧師、宣教の上に神様の御力を祈ります。文庫教会・先生方・教会員の皆さまの上に更に神様の御祝福をお祈り申し上げます。

**KK様・SK様** 白根先生には、関東学院小学校在職中からご指導をいただき、大変ありがとうございました。今後ともお元気でお過ごしくくださいますように。森島牧人・恵牧師のお働きの上に、主の豊かなお導きがありますようお祈りいたします。

**NK様** お招き感謝いたします。欠席させていただきます。ご就任式おめでとうございます。

一言 伝道はテクニックではないと思いますが、白根新治先生がなさっておられましたお年寄りの方々へのサービスもお忘れなく。お二人の新牧師先生の上に神の祝福がありますよう祈ります。アーメン  
\*また御就任を期に私への御教会の週報、信徒の友の御送付は不要です。

**IH様** 主の御名を賛美致します。この度は白根先生ご高齢で引退され、名誉牧師として御就任真におめでとうございます。長い間私達のこと覚えていただき、福音を伝えて下さって、本当に有難うございました。これからはどうぞお体お大事になさいます、見守ってくださいませ。大変申し遅れましたが、森島牧人牧師、恵牧師、白根先生の後を継がれ真におめでとうございます。主の御恵みが豊かにありますように、文庫教会がますます栄えますよ

うに、主の御名によりてお祈りいたします。

**SK様** 先生のご健康と金沢文庫教会の末永いご発展をお祈りいたします

**MT様** お知らせを頂き感謝しております。出席させていただきます。在主

**KM様・MT様** 神の手足となって、後 10 年！  
∞！！ われ支えられてまだ 78 年。有難うございます

**AA様** 昭和 32 年 4 月教室に入ってきた人？先ず皆さん私の事「しらねえ、でしょ。」そして名前を聞いても「信じられないでしょ」と言って黒板に「白根新治」と書きました。二度の竜ヶ崎に…文庫の新しい家を建てる前の敷地の整地を数名の先輩と手伝い…と思い出が有りました。そうですか！！92 歳、お元気でとお祈り申し上げます。出席させていただきます。

**TN様** 拝啓 葉書にて失礼致します。私は東京滞在の若き日、森島牧師の御父君の独身時代、親交がありました。不思議な縁と申しましょうか、此の度牧会の引継ぎが行われるそうですが、私も出席してよいのでしょうか。宜しくお願い申し上げます。主に在りて平安を祈ります。 不一

**YI様** 数年に一度しか礼拝に参加できませんが、白根先生、森島先生これからの御活躍お祈りいたします。 24 日クラス会もあり 25 日出席したかったのですが、ホテルが取れず残念です。就任式には出られませんが、後日礼拝に参加させていただきます。

**HS様** 白根先生へ 長い間ご苦労様でした。色々有難うございました。私が先生とお会いしてから、もう 50 年も経ちました。先生のお宅での礼拝を懐かしく思い出します。お身体にお気をつけて、これからもご活躍ください。森島牧人先生、恵先生 これから宜しくお願い致します。

**KK様** 森島牧人、森島恵様 就任式おめでとうございます。神は今、あなたを主の教会を牧する尊いつとめに召されました。聖書は「どうかあなたがた自身と群れ全体とに気を配って下さい。聖霊は、神が御子の血によってご自分のものとなさった神の教会の世話をさせる為に、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。」と教えています。あなたはこの群れに神の言葉を語り、聖礼典を執り行うために召されました。それゆえ、この世の知恵を語らず、自らを宣べず、ただ主イエス・キリストのみを宣べ伝え「雄々しく戦いなさい。信仰と正しい良心とを持って」

**KS様** 聖名賛美 定年後ご無沙汰しておりますが、白根先生はじめ教会員皆様には、ご恩寵のうちにお変わりなくお励みのこと 深く感謝致しております。白根先生、森島先生方の就任式は、大いなる神の格別なる祝福と恵み、いのちの光に充ちあふれますように。

**KN様・TN様** 神様の御恵みを感謝します。私達家族は田浦教会の頃からずっと白根先生のお導きをいただき、現在に至っております。今後とも、先生のお働きの上に主の御恵みがありますように。

#### 日本バプテスト横浜教会

白根先生 長らくお疲れ様でした。 大矢誉生

#### 東京平和教会早稲田チャペル

白根先生、牧人先生、恵先生 教会員の皆様おめでとうございます。大矢直人・センブ

#### 杉並中通教会

おおきなめぐみに感謝して マキン サンサン アウン

#### 潮来教会

10 月 25 日は教会の創立記念礼拝の為出席できません。就任式の上に主の祝福がありますことをお祈りいたします。久保

#### 水戸恵泉キリスト教会

此の度の御教会の喜ばしいニュースに感謝し、心から御祝い申し上げます。それぞれの就任式が祝福されますようお祈りいたします。

#### 日本バプテスト厚木教会

ご就任おめでとうございます。白根先生ご苦労さまでした。森島先生のお働きが祝されますように。並木裕忠

#### 霞ヶ丘教会

お祈りいたしております。

#### 聖路教会

当日、召天者記念礼拝、茶話会があるため終了の後伺わせていただきます。

#### 磯子の丘教会

おめでとうございます。

#### 中城城東バプテスト教会

白根牧師には長年名誉牧師としてご支援いただき感謝申し上げます。新任の森島牧人・恵牧師ご夫妻にはご苦労様です。祝福をお祈り申し上げます。主任牧師 神谷武宏 協力牧師 名護良健 総務担当 平良節子